

## 競争導入下のエネルギー・セキュリティ確保のあり方

### 背 景

第1次石油危機後、エネルギー・セキュリティの確保はエネルギー政策の最重要課題であったが、1980年代後半からは、効率化や環境保全がより重要な政策課題となってきた。しかし、電力分野の市場自由化が、世界的な“ダッシュ・フォー・ガス”の状況をもたらしたように、最近では、エネルギー・セキュリティの確保が再び重要な課題となりつつある。

### 目 的

全体的なエネルギー政策の中で、エネルギー・セキュリティの確保がどのように位置づけられているか、そのためにどのような具体的な手段が、とりわけエネルギー資源に恵まれない国々でとられているか、また、競争導入下で市場参加者はどのようなリスク・ベジの方法をとっているかまたその有効性と限界はなにかについて検討し、わが国における競争導入下のエネルギー・セキュリティ確保のあり方についての示唆を得る。

### 主な成果

IEA や EU および主要各国におけるエネルギー・セキュリティ確保のための政策動向を調査した結果、エネルギー・セキュリティ確保の世界的な傾向、各国ごとの特徴、およびわが国へのインプリケーションとして、以下を明らかにした。

1. 世界的に、効率化、環境保全と並んでエネルギー・セキュリティの確保はエネルギー政策の3本柱の重要なひとつとなっているが、これまではそのウェイトは必ずしも大きくなかった。しかしながら、電力の自由化に伴い、“ダッシュ・フォー・ガス”の状況が顕著になってきていることおよびEU やアジアの化石燃料に対する輸入依存度が高まっていく中で、エネルギー・セキュリティ確保に関するウェイトが再び増大しつつある。
2. 各国のエネルギー・セキュリティ確保のための政策は、短期、長期に分けて考察する必要がある。短期の政策としては、備蓄が、また長期の政策としては、国産資源の開発、燃料の多様性、エネルギー利用効率の向上などが一般に採用されている。
3. しかし、これを実現するための具体的な手段に関しては各国により異なっている。ドイツ、フランス、デンマークなどのエネルギー資源に恵まれない、または恵まれなかった国について見ると、ドイツは石油輸入国の多様化を図ったのに対し、フランスは原子力発電の積極的な開発を行った。また、デンマークは石油・ガスの国産燃料の開発に重点をおいた。さらに、いずれの国においても利用効率

の向上は重要な長期的な課題となっている。

4. 経済のグローバル化やエネルギー分野の自由化の流れの中で、エネルギー・セキュリティのかなりの部分は、市場参加者によって確保することが可能である。市場参加者によるエネルギー・セキュリティ確保のための手段としては、資本統合によるリスク・ヘッジ、供給の多様化、契約形態の多様化などが挙げられる。

上記の調査分析から得られるわが国へのインプリケーションはつぎの通り。

1. エネルギー政策の3つの柱である、効率化、環境保全およびエネルギー・セキュリティの確保は、整合性を図りつつ今後も密接な関連の下に進められるべきである。
2. 市場自由化の流れの中で、市場参加者や市場メカニズムによるセキュリティ確保は有効に活用されるべきであるが、エネルギー資源に恵まれないわが国固有の条件を考慮した時、長期的なセキュリティ確保の具体的なあり方についての政策的判断が求められている。とりわけ原子力開発が政策オプションとして存在している場合には、代替的手段とのコスト効果性を評価した上で、長期的なセキュリティ確保の手段としてその位置づけが明確にされる必要がある。

## 政策的含意

エネルギー資源に恵まれないわが国におけるエネルギー・セキュリティ確保のあり方については、長期的なセキュリティ確保を具体的にどのように行っていくかの政策的な判断が重要である。

## 今後の展開

今後とも、エネルギー分野の競争導入がエネルギー・セキュリティに及ぼす影響についてフォローアップし、わが国におけるセキュリティ確保のあり方を考察していく。同時に、わが国における原子力発電のセキュリティや環境面から見た位置づけを定量的に評価していく。

---

### 調査報告：Y00023

キーワード：規制緩和、電気事業、電力市場自由化、エネルギー・セキュリティ

---

### 関連研究報告書

---

主 担 当 者 矢島 正之（経済社会研究所）

---

連 絡 先 (財)電力中央研究所 経済社会研究所 事務担当  
Tel 03-3201-6601(代)  
e-mail src-rr-ml@criepi.denken.or.jp

---